

令和7年度 学校運営等に関する評価書

学校名

和歌山市立中之島小学校

1 教育目標

豊かな心と学ぶ意欲をもち、たくましく生きる子供の育成

2 学校自己評価についてのご意見

	確かな学力の向上	豊かな心の育成	健やかな体の育成	地域とともにある学校
指標	<ul style="list-style-type: none"> ・県学習到達度調査における正答率について県平均を目指す ・「毎日の勉強がわかる」(児童90%以上) 	<ul style="list-style-type: none"> ・「心のとびら」の活用100% ・「学校が楽しい」(児童95%以上) ・いじめの解消率100% 	<ul style="list-style-type: none"> ・体力運動能力調査結果で、[A][B]判定の割合が[D][E]判定の割合を上回る ・「朝ごはんを食べる」(児童100%を目指す) 	<ul style="list-style-type: none"> ・「学校と家庭はよく連携・協力している」(保護者80%以上) ・幼小連携や中学校との交流事業を充実させる
意見重点目標に対する	<p>学力定着への期待は高い。一方で点数のみならず、多様な体験を通じたキャリア教育の視点も重要である。</p>	<p>子供が楽しく通うことが最優先。先生と子供が触れ合う時間を大切にする姿勢を継続してほしい。</p>	<p>基本的生活習慣の確立は喫緊の課題。特に家庭と連携したメディア利用の抑制を重視すべき。</p>	<p>150周年等の行事を通じ、地域との関わりを深める目標は適切。挨拶の習慣化も継続して注視したい。</p>
意見取組状況に対する	<p>1人1台端末の活用が進んでいる。一方で、昔ながらの手書きや辞書活用といったアナログの良さも大切にしてほしい。</p>	<p>「いじめなくそうデー」やアンケートにより組織的対応がなされている。教員が休憩時間に児童と遊ぶ姿から愛情が感じられる。</p>	<p>体育の研究発表や放課後開放など、運動機会の確保に積極的。生活リズムの点検も定期的になされている。</p>	<p>ゲストティーチャーや読み聞かせなど、地域人材の活用が積極的に行われ、開かれた学校づくりが進んでいる。</p>
に取組の適切さの検証結果	<p>「わかる」児童は91%と目標達成。一方、県調査では国・算ともに県平均を下回り、特に「書く・読む」力に課題が残る。</p>	<p>「学校が楽しい」が97%と極めて高く、学校生活への満足度は高い。対話の時間確保がいじめ未然防止に有効に働いた。</p>	<p>体力調査でAB判定(82%)がDE判定(78%)を上回り目標達成。課題はメディア利用1時間超が約6割に上る点である。</p>	<p>家庭・学校の連携への肯定回答は82%で目標達成。ICTツール(つながる連絡等)の活用により、情報の可視化と迅速化が図られた。</p>
改善方法に向けての意見	<p>教科横断的な「書く活動」を推進し、ITに振り回されず「ITをしっかり活用できる」指導と、自学ノートの質向上を求める。</p>	<p>道徳・人権教育の時間を確保し、幼小連携による情操教育を深める。情報モラル啓発も継続が必要。</p>	<p>「寝る1時間前の脱メディア」に向け、より踏み込んだ家庭への啓発と連携強化を期待する。</p>	<p>幼稚園との常時連携の継続。図書ボランティアの協力は得られているが、図書管理のシステム化・専門員配置の検討も必要。</p>

3. 其他のご意見

○読書意欲の喚起: 児童の「読書が好き」という回答が75%に留まっており、興味に即した蔵書の更新や、魅力ある図書環境の再構築が求められる。

○挨拶の充実: 「自ら進んで挨拶できる子供」の育成を継続してほしい。